



文部科学省委託事業

人文学・社会科学を軸とした
学術知共創プロジェクト

第2回
シンポジウム



未来につなぐ知 — 公共の要としての大学

2022.2.15 Tue. 15:00-18:00

日本社会もグローバル社会も様々な課題の解決に迫られる中、学術知(特に人文学・社会科学の知)と社会の間、言葉と現実との間の距離を縮め、研究成果を社会の諸課題の解決につなげるシステムを作らなくてはなりません。他方、研究者(特に若手研究者)は、研究費やポスト等の点で厳しい環境に置かれている中で、研究成果をあげなければならないという実態があります。学術と社会がより積極的な形で繋がった新しい大学の在り方を構想するために、学术界として何を為すべきか。今回のシンポジウムでは、次代を担う研究者を招き、それぞれの立場から自由に語っていただきます。

◎参加費:無料 ◎定員:500名

■主催: 社会ソリューションイニシアティブ (SSI) ■お問い合わせ: ak-pj@ml.office.osaka-u.ac.jp



オンライン
開催

参加申込は
こちらから



or

クリック

[https://form.run/
@gsymposium-02](https://form.run/@gsymposium-02)

プログラム

15:00	開会、各種説明	小出直史 SSI特任准教授	15:35	パネリストによる話題提供
15:05	開会の辞	盛山和夫 事業総括者	16:25	パネリストによる相互討論
15:10	2021年度の報告	堂目卓生 プロジェクトマネージャー	16:55	休憩
15:25	趣旨説明	標葉隆馬 モデレーター	17:00	質疑応答
	論点：公共の要としての大学		17:50	総括（モデレーター）
	システム構築における人文学・社会科学の役割		18:00	閉会
	社会課題解決型の研究に対する評価の在り方			

パネルディスカッション 登壇者プロフィール

論点

公共の要としての大学

システム構築における人文学・社会科学の役割 社会課題解決型の研究に対する評価の在り方

◆モデレーター | 標葉 隆馬 (しねは りゅうま)

大阪大学・社会技術共創研究センター 准教授



京都大学農学部応用生命科学科卒業、同大学院生命科学研究科博士課程修了。博士(生命科学)。専門は、科学社会学・科学技術政策論。科学技術をめぐる倫理的・法的・社会的課題(ELSI)や社会の中での語られ方の研究、科学技術政策・研究評価など、複数の研究プロジェクトに取り組んでいる。著書『責任ある科学技術ガバナンス概論』(ナカニシヤ出版 2020)ほか、論文多数。

●西田 亮介 (にしだ りょうすけ)

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 准教授

テーマ：「大学、大学人への『不信頼』と失地の回復」



博士(政策・メディア)。慶應義塾大学総合政策学部卒業、同大学院政策・メディア研究科修士課程修了。同後期博士課程単位取得退学。(独)中小機構リサーチャー、立命館大学大学院特別招聘准教授等を経て、2015年東京工業大学着任。専門は社会学。著書に『コロナ危機の社会学』(朝日新聞出版)『メディアと自民党』(角川書店)『ネット選挙』(東洋経済新報社)ほか多数。

●小野 悠 (おの はるか)

豊橋技術科学大学 准教授

テーマ：「暮らしやすい街をつくるために何ができるか」



2016年東京大学大学院博士課程修了。博士(工学)。課題解決型=未来創造型まちづくりのための公・民・学連携のプラットフォーム「松山アーバンデザインセンター」や、豊橋駅前エリアの価値向上を民学官連携で目指す「豊橋まちなか会議」に都市工学の専門家として携わりながら、地域主体の自律的なまちづくりのあり方を研究・実践する。主な著書に「アジア・アフリカの都市コミュニティ」(共著)、「クロノデザイン」(共著)ほか。

●石原 明子 (いしはら あきこ)

熊本大学大学院人文社会科学部 准教授

テーマ：「紛争解決学に何ができるか×水俣・福島」



国際基督教大学、京都大学大学院(科哲)修了後、厚生省研究所で医療政策研究員を経て、2008年より現職。専門は紛争解決学(修復的正義、戦略的コンフリクト変容)。水俣や福島など構造的暴力の中で傷つきを抱えるコミュニティの人間関係と正義の構築、認知症やパンデミックによる社会葛藤変容にアクションリサーチにより取り組む。UC Berkeley大学院(公衆衛生)、Eastern Mennonite University大学院(紛争変容)修了。

●福本 江利子 (ふくもと えりこ)

広島大学大学院人間社会科学部 特任助教

テーマ：「研究と大学の公共的価値：構造、対話、志」



アリゾナ州立大学にてPh.D.(Human and Social Dimensions of Science and Technology)取得。専門は、科学技術政策、科学技術社会論、行政学。科学と社会、組織設計、研究戦略などの視点から研究や研究者、大学について研究。広島大学URAを経て2021年より現職。主な著作に「Public Values Theory: What is Missing?」(共著)、「国立大学法人化とは何だったのか：科学研究の観点からの評価」(共著)。

●多湖 真琴 (たご まこと)

株式会社メルカリ R4D Operations Manager

テーマ：「人文社会科学分野の研究への期待」



京都大学卒業後、開発職として富士通株式会社に勤務。2013年に弁理士資格を取得し、TMI総合法律事務所にて幅広い知財業務を担当。2018年、メルカリに入社後、知財チームの初期メンバーとして知財活動の立ち上げに従事。2019年よりR4D兼務。2020年より現職で、研究開発組織R4Dの企画運営を率いる。